

# 万博公園04年春の渡り鳥調査結果

(調査期間 04.4.15~5.5)

本調査は、吹田野鳥の会の方々により、昨年に引き続き「万博公園春の渡り鳥調査」を観察して頂いた結果を公表します。野鳥は地球環境の変化に対し敏感な動きをする生き物で、予測した観察結果を得ることは出来なかったのですが、複数年の調査データを蓄積することによって、万博公園の渡り鳥の生態が解明されていきます。

春の渡り鳥調査について

観察結果のまとめ

04年春の渡り鳥3科10種

渡り鳥の観察数

渡り鳥の種別個体数

渡り鳥を観察した日

オオルリ・センダイムシクイ

渡り鳥以外を含む観察種数トータル

渡り鳥の観察場所



製作：吹田野鳥の会

協力：独立行政法人日本万国博覧会記念機構

## 春の渡り鳥調査について

鳥の中には寒い冬を日本より南国ですごし、夏の繁殖期に日本やシベリヤなど北国に渡って子育てを行う鳥がいる。この渡り鳥が越冬地から繁殖地に移動する季節は春、北上の途中に万博公園などで休んでいく鳥があり、春の渡り鳥と呼んでいる。

春の渡り鳥が最も良く観察できるのは4月中旬～5月上旬であるが、

- ・どんな渡り鳥が万博公園を通過しているか
- ・通過する渡り鳥が、万博公園内の何処で休んでいるか(何処で観察できるか)

について調べることを目的に、04年4月15日～5月5日の間、春の渡り鳥調査を実施した。

## 調査結果のまとめ

04年調査結果は、03年に比し

- ・観察数ではセンダイムシクイが増えたものの、オオルリが大幅に減少した
- ・観察場所としては昨年が多かったビオトープの池(旧しょうぶ池)周辺がそれほどでなかったなど、鳥の渡りの状況が昨年と幾分違っていた。

この結果は、鳥の渡りがその年の気象条件の影響をうけるなどのため、一・二年の調査のみで万博公園の春の渡り鳥について結論を出すのは難しいことを示している。

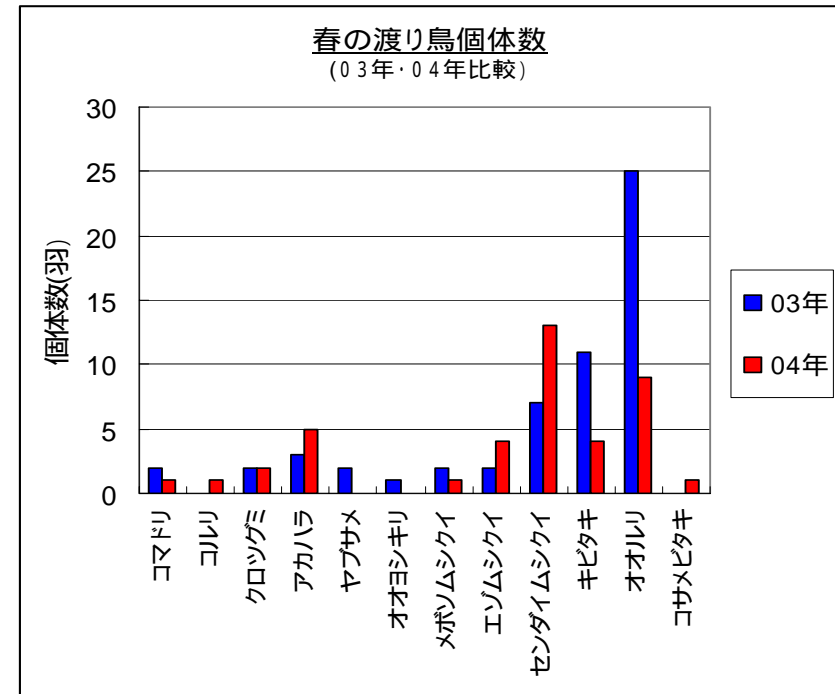
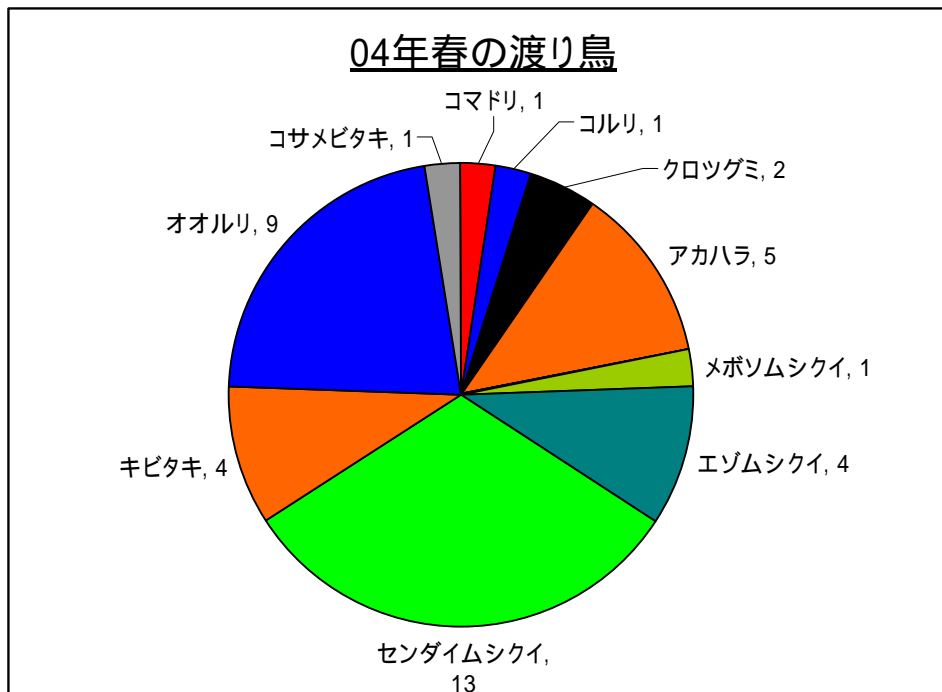
## 04年春の渡り鳥(ヒタキの仲間) 3科10種

- ・ツグミ科 4種(コマドリ・コルリ・クログミ・アカハラ)
- ・ウグイス科 3種(メボソムシクイ・エゾムシクイ・センダイムシクイ)
- ・ヒタキ科 3種(キビタキ・オオルリ・コサメビタキ)

## 渡り鳥の観察数

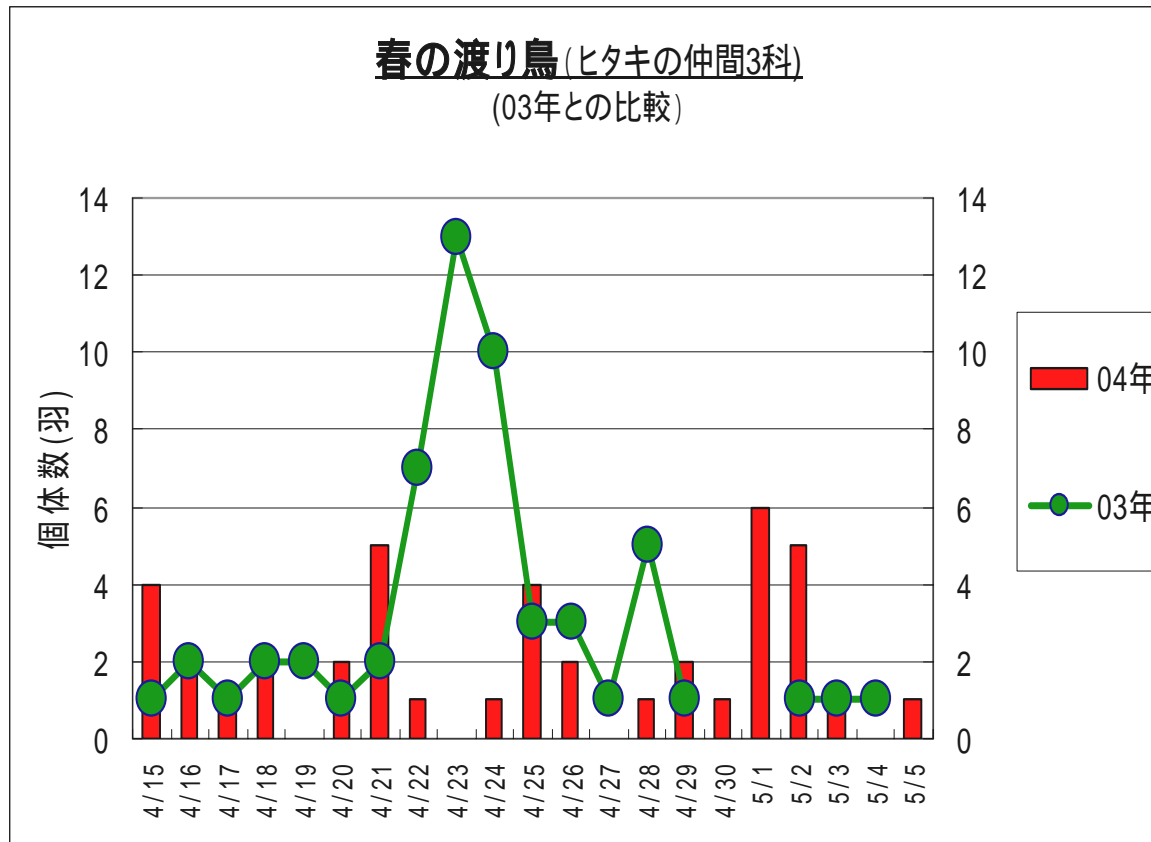
年度	04年	03年	増減
3科トータル	41羽	57羽	16羽
内 オオルリ	9羽	25羽	16羽
内 キビタキ	4羽	11羽	7羽
内 センダイムシクイ	13羽	7羽	+6羽

# 渡り鳥の種別個体数



04年はセンダイムシクイの数が一番多く、続いてオオルリ・アカハラ・キビタキ = エゾムシクイの順であった。  
 03年に比し、センダイムシクイが増えたものの、オオルリ・キビタキが大幅減となった。  
 またコルリ・コサメビタキが04年に観察できたが、03年にいたヤブサメ・オオヨシキリは観察できなかった。

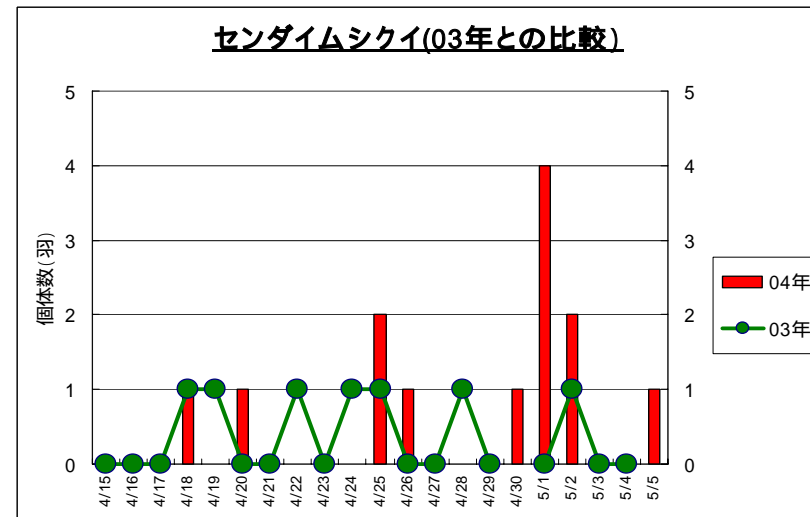
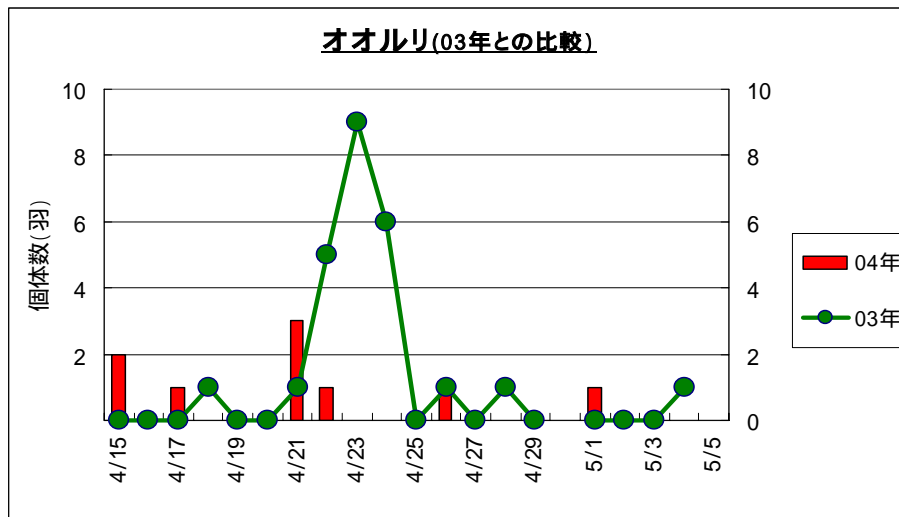
## 渡り鳥を観察した日



ヒタキの仲間3科の鳥の日別観察数は図の通りであった。

03年は4月23日の13羽を中心にピーク状となったのに対し、04年はなだらかな高原状で、最大数も5月1日の6羽に止まった。

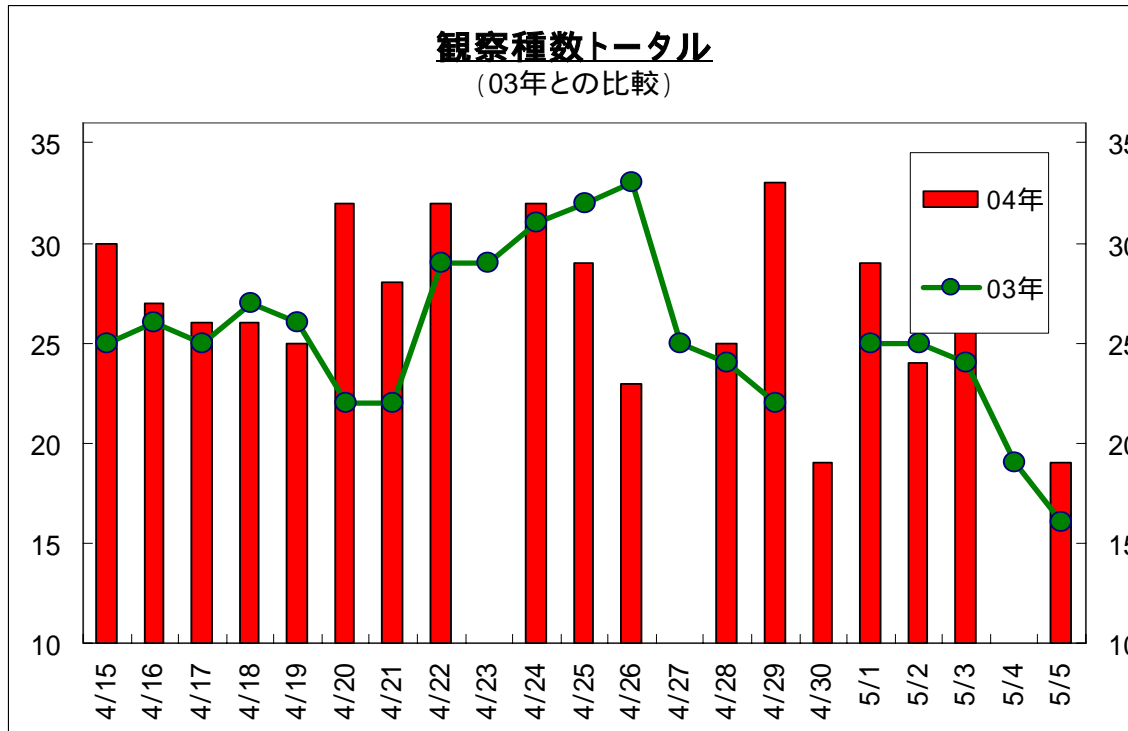
# オオルリ・センダイムシクイ



ヒタキの仲間3科の中で最も多かった渡り鳥は03年がオオルリ、04年がセンダイムシクイと異なったので、両種について日毎の観察数を比較した。

- ・ の渡り鳥全体像は03年がオオルリ、04年はセンダイムシクイの影響が色濃く出ている
  - ・ 03年・04年は観察個体数の違いのみでなく、日毎の渡り状況も大きく異なっている
- など、両種・両年に共通点が全く見られなかった。

## 観察種数トータル(渡り鳥以外を含む)



渡り鳥以外の鳥を含め、調査中に観察した鳥の日毎の観察種数を示した。

4月下旬に観察種数が多いのは、通過する春の渡り鳥が多いためである。

5月に入ると冬鳥・渡り鳥とも少なくなり、20種を下回るようになる。

	観察種トータル	一日平均	観察日数
03年	51種	26.9種	18日
04年	48種	25.4種	20日

## 渡り鳥の観察場所

以下、渡り鳥の観察場所を集約し、3枚にまとめた。

- 1) 04年ヒタキの仲間3科観察場所
- 2) 03年        "
- 3) 03年・04年のニューナイスズメ・コチドリの観察場所

1) 2)を比較すると、観察場所がほぼ園内全域に散らばっていることは同じ傾向であるが

- ・03年に比し04年の個体数が少ないこと
- ・03年に多かったビオトープの池(旧しょうぶ池)周辺への集中が、04年はそれほどでないこと

など、観察個所に変化が見られた。

ヒタキの仲間以外の2種を3)に併記したが

- ・ニューナイスズメは日本庭園東側の林に集中している
  - ・コチドリは水すましの池の上流側(噴水からの流水域)に集中している
- など、この2種については観察場所が特定できるほどであった。